

Special

スペシャル

特別号

LA FOLLE JOURNÉE de NIIGATA



ラ・フォル・ジュルネ 新潟

 新潟
 NIIGATA

「熱狂の日」音楽祭2010 2010年4月30日(金)・5月1日(土)

 ASSOCIATION-NIIGATA FRANCE ● 発行人 ● 新潟・フランス協会
 ● <http://anfrance.com> ● 新潟市中央区東堀通6-1038(丸屋本店内) ● TEL・FAX 025 (225) 2424

 スペシャル
 新潟初開催を記念し、「ラ・フォル・ジュルネ 新潟」の記録として、特別号をお届けします。

事務局長 本間 強

10数年前の冬、ナントに訪らんと立ち寄った。偶然だったが、ちょうどなか大きな音楽会が開かれていた。フランス中から、ヨーロッパの国々から、この音楽祭を聞くための人で溢れていた。

ナント市内のいろんな会場で、有名な音楽家による演奏が行われていて会場を自由に選択できると言う。しかも、割安な料金で…。そんなクラシックのコンサートがあるのかと訝ったが、もう何年も続いていてナントの名物になっているらしい。その夜、それぞれ演奏者の異なるコンサートを3会場で聞くことができた。みんなラフな格好をしていて家族連れも多い。こんなクラシックのコンサートがあるのかとカルチャーショックを受けたことを思い出す。それが「ラ・フォル・ジュルネ」との出会いだった。



時を経て2010年。この新潟で、まさかLFJが開催されることなど想像すら出来ないことだった。あの2日間、私は夢の中이었다。

1992年2月、新潟・フランス協会のメンバーは故松崎文則会長のもと、初めてナント市を訪れた。アトランティック・ジャポン協会会員やナントの人たちの温かさに触れ、長く付き合える良き友人を得たような気がした。それを契機に毎年のように相互の交流を重ね、今日に至っている。

2009年1月。念願が叶い、新潟市とナント市は姉妹都市提携に調印するに至った。新潟・フランス協会とアトランティック・ジャポン協会を中心とした市民交流から行政同士の交流が加わり、交流がさらに拡大することになった。その象徴が「ラ・フォル・ジュルネ新潟」と言っても過言ではない。LFJは市民交流から生まれた「市民のための音楽祭」と言えると思う。

3万人の人々が参加し、一流のアーティストによる演奏に酔いしれ、街が賑い、子供からお年寄りまでみんなが楽しんだと思う。市民によるボランティア・スタッフも大きな支えとなった。

協会の数十名の会員によるガレットの実演販売やショパン市場の販売などで協力できたことを喜びたい。願わくは、LFJが来年以降も開催されることを期待し、新潟の個性あふれるLFJに、変化しながら市民の音楽祭としてさらに成長してゆくことを望みたい。

おわりに会員の皆様のご協力により感謝する次第です。ありがとうございました。



Q&A



＜マドモワゼル ジャー＞
LFJN(ラ・フォル・ジュルネ新潟)楽しかったね。



＜マドモワゼル ワケッサ＞
フランス協会のボランティアスタッフの皆さんの声を聞いてきたよ。

①

楽しかったことは？
良かったことは？

②

困ったことは？

③

一番のエピソード(こぼれ話・うら話)

④

楽しみ方アドバイス など

「きっと来年も」

白井ゆみ

少ない準備期間、低い知名度、経験者のいないスタッフ……ないないづくしでスタートした「ラ・フォル・ジュルネ新潟」でしたが、開催当日、予想をはるかに上回る人出やチケットの売り上げとなり、まさに嬉しい悲鳴の二日間となりました。

その中で、新潟・フランス協会のボランティアの方々とのチームワークの良さと身を尽くしてお手伝いは、特筆すべきものがありました。手弁当で、東京からガレットを焼きに来て下さった高田功先生はじめ、皆さんから「学生時代のバザーのように」楽しんで下さったとの感想をお聞きし、本当にありがたく、「新潟人の人情」こそが新潟開催の成功の秘訣、と実感しました。

クレープ(ガレット)の実演販売

小飯塚 眞理子



4.30 [🌟晴れ・強風あり]

- 9:00 《準備》ガレットの種作り、材料の配置。
- 11:30 《開店》ガスの火元の準備ができていなかったため、少し遅くスタートになりました。強風のため、卵の箱が倒れてしまい、10ヶほど割れた。
- 13:00 《強風のため、14時終了の連絡。
- 14:00 《閉店》テントの中を片付けて終了。

5.1 [🌟晴れ・風弱]

- 8:45 《準備》ガレットの種作り、材料の配置。
- 9:30 《開店》ガレット焼き開始。
- 10:00 お客様が訪れるはじめる。チームワークがよく、10分間毎ガレットがどんどん売れる。夢中になって働いていて、気が付いたら行列、びっぴり。
- 12:00 高田先生がコンサートに行かれたため、ガレット焼きスタート。
- 13:45 材料が少なくなってきたー!
- 15:30 行列の最長の人に譲って良かったー。
- 15:30 《売却》
- 16:30 《閉店》テントの中を片付けて終了。

ショパン市場

曾嶋和彰



- A1 初め商品の陳列(シルクスクリーンのカート)をしているときは、全く内容を理解していなかったが、カード1枚1枚が曲名であることがわかり感謝した。それで陳列方法を変えたりしましたが、冒頭の担当の方の陳列はお見事でした!
- A2 新潟市の受付でお昼のお弁当の用意があまりうまくいかなかった。自費を持って「フランス協会が指定に使用するものを買えます」と言えましたが、強風でガレットが止まらなくなり食べきれず残りました。
- A3 30日は事前に「一日貸しています」ということで登録しておりましたが、私のシフトは10時から20時までとなっていました。「まよまさか!」17時くらいまでのつもりでしたが、黙っているとき使われます。
- A4 自分のお昼担当のアーティストの合間にボランティア良いですね。満足した人々の顔を見るのは嬉しそうです。またアーティストの方もんびりとしたお昼の一時を過ごしているように感じました。こんなんびりした楽しみ方、東京ではできません!

池田 孝紀

中澤 新一

- A1 物が売れるということがこんなに楽しいこととは、思ってもみませんでした。売って欲しい商品(売れていない商品)に「店長イチオシ!」等のプロップを張ったり、商品を並べ替えたりして幾分か売れたときは感動もものです。
- A2 釣銭切れに備え、地札10円玉と50円玉確保に奔走しなければならなかったこと。それから飲酒は厳禁!始めにりんご酒(アルコール%)と甘く見えました)を頂いたため、最初も暗算すらできなくなり、作業の流れが滞ってしまいました。
- A3 二日目、ウーとびあつた翌朝のなか全く地割りに気付かず、しかも携帯の電源も切ったままだったので(少し前までコンサート会場内にいたので)、職場からの呼び出しにも気付かなかった。ごめんなさい。
- A4 売の子は、必ず商品を自ら確認し特徴を掴んで置くこと。そうでないと誤った情報をお客様に与えたり、PRできることもできなかつたと思います。LFJについては、新潟は広報期間が短かったように思います。今度金沢や大津の評価が高かったことから、来年は他のLFJも見学に行きたいと考えています。新潟との違いは何がアドバイザーはそれからということで。

- A1 優良の材料を使っているガレットなので、美味しいのは保証ですが、食中毒やクリームが何もしなかった事が一番安心しました。材料を準備した基にとって良かった思い出です。

(それは粉一國産最上級、ベーコン朝日豚手作り特別ベーコン、卵一國産・生食用、チーズ・スイス産、塩一フランス産、油一フランス産グレープ・シードオイル)

- A2 強風対策がされていなかった事。

- A3 “美味しい!”ということばがうれしかったです。チームワークもバツグンでした。良かったです。(ゲストの様に10人動いていました。)

- A4 LFJのコンサート会場の空気が少なくなる様に、参加力が大切。もっと行こう!コンサート会場へ!

「強風の中、本当にお疲れ様でした。」



ピアニストの譜めくり

広野 光子

① 2人のピアニスト(フランス:ヴァンサン・コック、ブルガリア:プラメナ・マンゴヴァ)共、本書での集中力、音楽に対する情熱が感じられ、すぐ傍に居た私は、大変貴重で、幸せな経験をさせてもらいました。

② ゲネプロでは、全曲を通してやってもらえないし、楽譜も貸してもらえなかった。で、本書はとにかく間違えない様かなり緊張しました。アンコール曲も初めて見たのでヒヤヒヤでした。おまけに、とても速い曲で、必死で音符について行きました。

③ 係の方に「英語が仏語でお話して下さい」と言われドキッ!「ボンジュール」と挨拶したら、ものすごいスピードで仏語が返ってきました。あわてましたが、音楽用語で何とかクリア!ブルガリアのピアニストは、普通よりかなり早めにめくる様に指示され、意外でした。とにかくひや汗が出ました。

④ 多勢のクラシック音楽ファンが参加し、嬉しい限りです。処々にボランティアの方々が居て、心強かったと思います。ガレットのお店が閉まっていた、とか食べられなかったと残念がっていた方がいました。



思ひがけず
責任上で譜めくりをする
広野先生を見たい!
私もできず悔しかったです。

LFJ 発祥の地 ナント市からのスタッフとして

沼口 久美子

第1回ラ・フォルジュルネを、楽しんでいただけましたでしょうか?新潟市民の素晴らしい鑑賞態度や、伝統家庭を利用したユニークな演奏会場には、アーティストからも賞賛の声があがっていました。

様々な要請にも快く対応していただいた、プロジェクトの高いリョーとびあ職員、舞台裏で効率よく段取りしてくださったスタッフ、新潟・フランス協会をはじめとするボランティアの皆様のご尽力があったからこそその成功です。最終日は喉しく会場を離れたため、お世話になった方々にろくなご挨拶もできませんでした。この場をお借りして、御礼申し上げます。



新潟出身 出演アーティスト

井上 静香

① 素晴らしい天気の中、混雑するリョーとびあ界隈を両脚とゆっくり歩いたこと。皆で作りに上げることのできた古町ステージ。

④ 今後も続いていくことを心から願っています。
第1回目に行って成功した事はヴァージョンアップしながら残し、盛り上がりきらなかった点は改善をはかる。前向きに神にとらわれず新潟らしいLFJにしていきたいですね!



ナント・バーチャルツアー@古町 酒井 麻里

フランスでは大抵の街に観光案内所があり、市内ツアーに申し込むことができる。ガイドの案内で主だったスポットをもちろん観光し、土地々々の歴史秘話も聞くことができるので、初めての街を知るにはとても便利なサービスだ。これをヒントに作成したのが「ナント・バーチャルツアー」で、ナント市中心街の地図を片手に、プロジェクターから映し出される風景や音楽と共にナント市を30分でガイドさせて頂いた。古町に居ながらナントを感じている新潟市民の傍らで、DJタイムに流したフランスのポップスに「まるで故郷に居るみたい」と盛り上がる新潟滞在中のナント市民。音楽がもたらす小さな架け橋は、コンサート会場のみならず街角からも生まれていた。

「熱狂の日を満喫」

山本 透子

鑑賞したのは、二日目のリョーとびあコンサートホールが2コマと、リョーとびあ劇場、音楽文化会館の合計4コマ。大変レベルの高い充実した公演で、会場はいずれもほぼ満席。未就学児の入場が許されていることもあり、通常の夜の公演よりも、観客の層が幅広く感じます。行き交う人々の顔は、皆笑顔。会場をあとこち行き来する中、池に浮かぶフローティングチューリップや花絵、出店などの賑わいも楽しく、お祭り気分はウキウキと高まります。

途中、時間調整で白山神社や上古町をお散歩しました。上古町にこんなに人が集まっているのを、何年ぶりに見たことか...。一層嬉しくなり、雑貨屋さんでお買い物したり、甘酒を飲んだり、久しぶりにプラプラ散策する古町も楽しみました。上質な音楽に、楽しいお散歩と、実に気持ちのよい春のイベントを満喫。ラ・フォル・ジュルネ新潟が、毎年の恒例イベントになりますように!

「ラ・フォル・ジュルネ音楽祭に参加して」

新潟音楽協会 理事 広瀬 秀

春爛漫の4月下旬、新潟市の音楽ファンは至福の時をむかえました。10年ほど前にフランス・ナント市で産声をあげた「ラ・フォル・ジュルネ音楽祭」が、とうとう新潟にやってきたのです。

りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館とその界隈において、2日間で38公演のコンサートが開催され、市内古町通と白山公園周辺では、フランスの食を味わえる屋台や模擬店が設置されました。今年は「ショパンとバロック」がテーマです。

私は合計13枚の公演チケットを入手して、市内5会場をせわしなく行き来しました。どの会場もあふれかえる人たちの波、すばらしい音楽を聴いた後の感激や、お祭り気分が気持ちが高揚しているのか、会場内のどの人も興奮して上気した顔をしています。盛り上がっているお祭りとは、得てしてこのような雰囲気知らず知らずのうちに自分自身がとけ込んでいくものだと思います。

この音楽祭で私が聴いた演奏家は、みな見事な演奏を披露して下さいました。中でも成嶋志保さんのショパンは、日本人のピアニストでありながら、フランスのエスプリを充分に感じさせてくれる特筆に値する演奏でした。成嶋さんの演奏が終わってから、感激で火照った身体を冷やしながら、さらにフランス気分が浸りたくなったのでした。選んだのがワインを飲ませてくれるドリンクコーナー。しかし、そこは長蛇の列。しかたなく別の屋台でガレットを食べたのですが、これがまた何ともいえない異国情緒のすてきなお菓子だったのです。この2日間はすばらしい音楽を聴いて、粋なフランスの食を味わい、すっかりフランス三昧の「熱狂の日」でした。この音楽祭が、今後も開催されることを心から祈っております。

来年もまたお会いできまうように！ Merci beaucoup!

渡辺 毅之

4月30日、雪文の空中庭園に開店した新潟・フランス協会のガレット店のお手伝いに参加しました。朝10過ぎに会場を訪れたら、既に、メインシェフ？の廣田先生や小坂さん、さらに白井さん、新田さん、五十嵐さん、中根さん等の皆さんがテントやキッチンで設備中でした。信濃川の河畔に位置することおぼ、景観は素晴らしいのですが、風当たりが強く、折しもの強風で、テントが吹き飛ばされそうになったり、ガステーブルの火が消えそうになったりと、開店前から大騒ぎ。おまけに用意していたプロパンガステーブル2台が不調で使用できず、小生、あわてて自宅から携帯ガスコンロを運び込んでの開店でした。平日でしたが、LFJのコンサートに来られた方々が大勢押し出でて、ガレットの製造？が間に合わないほどの盛況でした。翌1日も朝からお手伝い。休日とあってか、昨日以上の大盛況。大勢の観客の皆さんが行列し、スタッフ一同、汗を掻きながら、大奮戦！小生もシェフ？の裏で朝飯のお手伝い。いつもながら、我が新潟・フランス協会の結束の強さを感じつつ、学園祭の盛りでの、楽しい一時を過ごした2日間でした。



伊藤 薫

5月1日 土曜日 晴れ。空中庭園に向かって歩く。風が軽やかにステップを跳う。花のアーチと大きな花箱、そして歩道にも可憐な花が揺れる。気分上々で、目指すは「新潟・フランス協会 ガレットカフェ」。…と、私はお客様ではありません。

この日の為の「廣田ガレットスクール」に一堂も参加できずして、なのに大層にもスタッフとして参加を希望！とりたいです。時にはエプロン。今日の目標は、「臂の足手まといにならない」という謙遜さ、と言っ今日私の私って役に立つのかな。会場に到着すると、料理長の廣田先生を筆頭に「廣田ガレットスクール」の優秀な生徒の皆さんが赤や青のチ

ーフを被り、儀典と一列に配し万全の態勢。私も早速、青のチーフを被り「接客ポジション」を確保。己を知った賢い選択です。風が強い、気温が上がる。決して過ごしやすい気候ではなかったのですが、「新潟・フランス協会 ガレットカフェ」の前には、お客様が並び、並ぶ。

あまりにもお待たせして申し訳ない気持ち私を縛る。「お待たせしました！でも、そのお陰でお客様にとって良いことがあります。」

「どんなこと？」
「熱、熱、(アツアツ)出来たてです！冷めても、勿論美味しいのですが、この素晴らしい色の麗麗なクレームガレットに彩の色が鮮やかでしょう？ 煎進されたベーコンの香ばしさとトロリ溜けるチーズが絶妙です。料理長は一流ですし、料理スタッフの愛情入りです！」

「あら！そうよねえ、私、ガレットを初めて食べるのよ。」
「このガレットが初体験なんて、お客様はラッキーですねえ。」
会話は続く、続く。椅子を運び、土手まで、ガレットの配達。口と身体の熱肉を思いっきり使った一日でした。

次回は私も
行きたいな♡



©MAMAROLL ソフト